

けっしょうも 結晶母

発行：テラ・ルネッサンス 発行日：2005 年 01 月 01 日

Terra
Renaissance

Topics ウガンダ北部で元・子ども兵自立支援を計画

世界に約 30 万人存在する子ども兵に関する問題に取り組むため、テラ・ルネッサンスでは 2004 年 4 月にスタッフを内戦で子ども兵が多く存在するウガンダ北部へ派遣。調査結果に基づき、関係者との協議や日本国内での子ども兵問題の啓発を続け、ついに 2005 年より元・子ども兵自立支援プログラムを計画・実施することになりました。
(詳細は 2 ページ)

ウガンダの元・子ども兵

【結晶母目次】

- P01 表紙
- P02 2005 年国際協力事業について
- P05 カンボジア視察報告
- P08 希望の光セミナー報告
- P10 小型武器による悲劇をなくしたい
(日本小型武器行動ネットワーク)
- P13 全国各地から真心の支援が続々と
- P14 カレンダー・リーフレット完成
- P15 21 世紀 PEACE 講座/編集後記
- P16 裏表紙

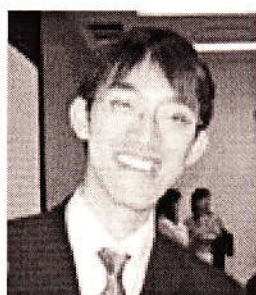
テラ・ルネッサンス (平和 NGO)

京都市伏見区深草池ノ内町 5-23-302

TEL&FAX 075-645-1802

URL <http://www.terra-r.jp>

代表挨拶 (鬼丸昌也)



2004 年はテラ・ルネッサンスにとって基礎固めの年であったように思えます。04 月のウガンダでの子ども兵に関する調査。11 月に日本小型武器行動ネットワーク設立など、小型武器・子ども兵に関する活動を大きく展開

するために不可欠な取り組みを行うことができました。これも会員・支援者の皆さまのご支援の賜物です。心より感謝申し上げます。2005 年は大きく飛躍する年であると確信しています。ウガンダでの元・子ども兵自立支援。カンボジアでの義肢装具士を目指す学生への奨学金給付など、具体的な国際協力事業を展開し、その成果をもって国内での地球市民意識の啓発事業に活かしたいと考えております。より一層の皆様からのご理解とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

2005年国際協力事業

ウガンダ北部で元・子ども兵の社会復帰プログラム開始

テラ・ルネッサンスでは設立以来、カンボジアでの地雷除去支援に取り組むなど、国際協力事業を活動の重要な柱としてきました。2005年、国際協力事業に大きな変化を迎えます。支援対象国にアフリカ東部のウガンダが追加されます。そこでは元・子ども兵の社会復帰のための事業を展開する予定です。

国際協力事業を支えているのは、皆様からの温かいご寄付です。どうぞ、下記のプロジェクト概要をご覧になり、ご理解とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。詳しい概要書もございますので、ご希望の方は事務局までお問い合わせください。

(代表 鬼丸 昌也)

元・子ども兵社会復帰プロジェクト

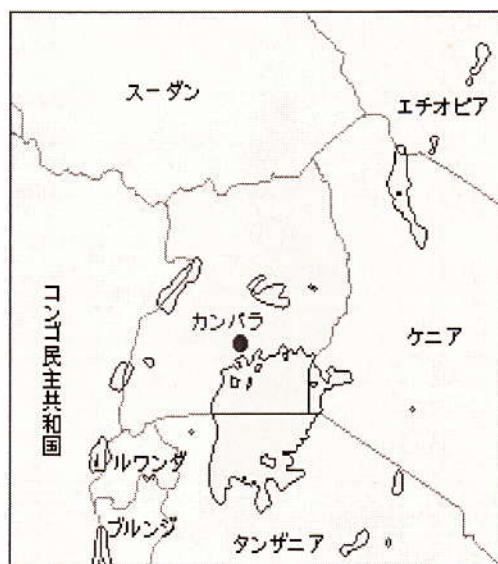
子ども兵問題に関心を示していたテラ・ルネッサンスとして、本格的な子ども兵関連の支援を2005年より実施する予定となりました。支援対象国はアフリカ東部に位置するウガンダ共和国北部地帯。私たちが2003年より取り組んできた「子ども兵」問題の具体的な支援活動を始めることになりました。

【支援を行う背景】

現在、ウガンダ北部のグル市周辺では、反政府軍である神の抵抗軍（LRA：Load Resistance Army）と政府軍の争いが激しく続いており、ここ10年以上にわたり、グル市周辺の村々から子どもたちが拉致されLRAの兵士として戦わされてきました。ここ18年間で拉致された子どもの数は2万人以上にも及び、この神の抵抗軍の66%は子どもで構成されていることから「子どもの軍隊」とも呼ばれています。

子ども兵として戦わされてきた子どもたちは、激しい戦闘の中で手足を失うなどの身体的障害を負っているだけでなく、殺戮や暴力を強制されるなどして精神的な障害（トラウマ）にも侵されており、除隊後も、地域社会に戻り日常生活を送ることが困難な状況にあるのです。また、グル市周辺の村々ではLRAによる拉致を恐れて、毎晩数千人の子どもたちがグル市の中心街にやってきて建物の軒下や施設で寝泊りし、夜間の避難を余儀なくされている状況です。

ウガンダ地図（外務省 HP より）



【具体的な支援プログラム】

（1）避難民への仮設シェルター【人道緊急支援】

グル市周辺の村々からLRAの拉致を恐れて市内に毎晩4000人～6000人の規模で夜間避難してくる子どもたちへ、避難用の仮設シェルターの建設を行う。国連食料計画（WFP）や町の教会などがこの避難民の子どもたちにシェルターを提供しているが、避難する子どもたち全員を収容することはできず、子どもたちは建物の軒下などで寝泊りしなければいけない状況であり、この避難が毎晩続いていることにより、子どもたちの身体的、精神的な影響は大きく、緊急に仮設シェルターを建設する必要がある。

（２）元子ども兵への身体的ケア【人道緊急支援】

LRA から逃げ出したり、政府軍に保護されるなどして除隊した子ども兵の多くは、栄養不足や戦闘によって怪我を負っているなど身体的に何らかの障害を負っていることが多く、身体的治療が必要である。しかし、現地で元子ども兵を収容している施設では医薬品やビタミン剤などが不足しており、このため、これらの施設に収容されている元子ども兵への身体的治療のための医薬品とビタミン剤の供与を行う。

（３）元子ども兵への職業訓練【社会的弱者支援】



支援先のひとつ「GUSSCO」（ウガンダ）

多くの子ども兵は十代前半に拉致され兵士として戦っており、教育を受けるべき十代の時代を奪われた彼らには社会で働くために必要な知識や術がない。たとえ身体的なケアと精神的なリハビリを行ったとしても、その後、地域社会に戻り職を得て経済的に自立していくことは非常に困難な状況である。実際、施設を出た後職を見つけることができず、結局軍関連の職業に就かざるを得ない子どもたちもいる。

よって、この状況を改善するために、子どもたちが施設を出た後地域社会で経済的に自立していけるための職業訓練を行う。具体的には、現地でニーズのある職業として少女に対しては、刺繍と洋裁のトレーニングを行い、少年に対しては自転車修理技術のトレーニングを現地 NGO と共同で行う。

（４）元子ども兵の地域社会への社会復帰支援【社会復帰支援】



裁縫製品を扱う店を開きたい

元子ども兵として加害者の立場でもあった子どもたちは兵士時代に自分の故郷（村）でも村人を殺害させられるなどの残虐な行為を強いられているケースもある。自分の生まれ故郷でありながらその村（地域社会）から様々なプレッシャーを受けることがあり、子どもたちが自分の故郷である地域社会へ復帰していくためには長期的な支援が必要となる。そのため、職業訓練後も子どもたちのサポートを一定期間継続していく。具体的には、リハビリと職業訓練を終え施設を出る際、少女に対しては数人に一台のミシンを供与し、少年に対しては自転車修理用具を供与して、６ヶ月間を目処に、毎月、子どもたちの生活状況と供与したミシンや自転車修理用具でどれだけの成果が上がったかをモニタリングし、子どもたちへカウンセリングを行い、その都度、適切なアドバイスと支援を行っていく。

（５）元子ども兵の和解促進の支援【和解促進】

初期の頃に拉致され兵士とされた子どもは、後に子ども兵となる子どもを自分自身が拉致し子ども兵に仕立て上げていることがあり、ひどい場合には、その子どもの家を焼き払ったり、その子どもの村で残虐な行為を行っているケースもある。つまり、同じ施設の中に自分を拉致して自分の村で残虐行為をした相手がいるケースがある。また、LRA の厳しい命令と服従の軍の中で、上官として懲罰を与えてい

た元子ども兵と、懲罰を与えられていた元子ども兵が同じ施設内にいるケースもある。つまり、社会復帰することと同時に、憎しみあっていた子どもたち同士の和解がなければ、新たな争いにつながる可能性がある。その為、双方の和解を促進するために、職業訓練を行う際には、そのような子どもたちが共同作業を進めることで双方の和解を促進していく。また、現地 NGO と協力し、子どもたち同士の和解を促進するためのワークショップや対話の機会を子どもたちに与えていく。

除隊兵士生活再建プロジェクト 【支援先：特定非営利活動法人インターバンド】

特定非営利活動法人インターバンド（事務局：横浜市）がカンボジア北西部にて実施している「除隊兵士生活再建プロジェクト」を支援（参照 6 ページ）。障害のため生活再建の困難な除隊兵士の家族に、小規模ビジネス（例：養鶏、養豚、野菜栽培など）を開始するための資金を 6 ヶ月間提供。

義肢装具士育成プロジェクト 【支援先：カンボジアトラスト】

カンボジアトラスト（事務局：イギリス）が義肢装具製作工場に併設している義肢装具士養成学校に通う学生に対し奨学金を支給。学費、生活費あわせて約 90 万円（一人当たり 1 年間）。現在、地雷廃絶と被害者支援の会・熊本（事務局：熊本市、代表：最相博子氏）と共同で 2 年生の学生に対し奨学金を支給した。2005 年は引き続き同じ学生の卒業年度の奨学金を支給する予定。

地雷廃絶プログラム、その他 【支援先：HALO TRUST ほか】

設立以来、私たちが取り組んでいる地雷廃絶のための活動は、カンボジアの HALO TRUST（事務局：イギリス）への支援を介して行われます。2005 年は HALO TRUST カンボジア事務所の新規コンピューターの購入費用を提供したいと考えています。現在、彼らが使用しているコンピューターは古く、カンボジアに数箇所ある事務所のコンピューターを取り替えることで、資材・資金・人材の管理がより無駄なくスピーディーに行われるようになります。

また、カンボジアでの孤児院を運営しているクメール財団、地雷による被害者への緊急治療を行っているエマージェンシーホスピタル（事務局：イタリア）へのスタディツアー時の資金提供は引き続き行います。

国際協力事業へのご支援をお待ちしております

上記でご紹介した数々の国際協力事業を支えて下さっているのが支援者の皆様から寄せられる「浄財」です。今年は約 1,500 万円近い予算を必要としています。重ねての支援のお願いになりますが、どうぞご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

【郵便振込】

加入者名：テラ・ルネッサンス基金 加入者番号 00950-7-133760

※通信欄に「●●」プロジェクトと用途をご指定下さい。

※用途をお任せになる場合は「国際協力事業」をご記入下さい

【銀行振込】

京都中央信用金庫 竹田南支店 普通 テラ・ルネッサンス 代表 鬼丸 昌也

※銀行振込をご利用になる方は事務局までご連絡先をご一報下さい。

■ カンボジア鉛筆大使贈呈団

&スタディツアー報告

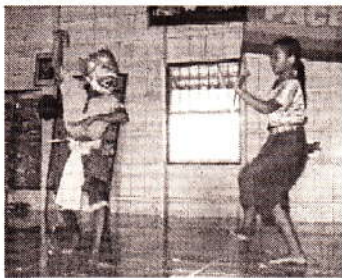
2004年10月29日、関西国際空港を飛び立ち、京都文紙事務用品組合の鉛筆大使の方たちとともに、カンボジアの小学校と孤児院へ日本で集めた鉛筆や文房具を届けに向かった。そして11月6日まで現地の支援団体を訪問し、現状の視察を行い、これからの支援の確認を現地支援団体のスタッフと行った。



1. 鉛筆贈呈式

①平和の子どもたちの家 Le Foyer

ソン・サン元首相・カンボジア王国最高顧問の息子ソン・スベール氏（カンボジア王国王国議会副議長）が1995年に設立した孤児院。Le Foyerは、カンボジアにおける長い戦争と破壊の結果捨てられてしまったストリートチルドレンと孤児のための家である。『正義と平和と開発のためのクメール財団』によって創始された。首都のプノンペンから車で2時間くらいかけて行ったカン



アプサラダンス

ダール州の田園風景が広がる片田舎に、孤児院はある。

私たちが訪問したとき、予想外にもソン・スベール氏にも歓迎をうけた。さらに驚いたことに、孤児院の生徒代表がなんと日本語であいさつをしてくれたのだ。そして、子どもたちは楽器演奏の音楽に合わせてアプサラダンスを踊ったり、全員でカンボジアの歌や日本の“もみじ”までも歌ってくれるという歓迎ぶりに、思わず涙がこぼれ落ちた。

ここでは、鉛筆1万3000本あまりを贈呈した。一人一人には鉛筆を袋詰めしたものを手渡したが、その時の子どもたちの嬉しそうな笑顔があまりにも素直で、こちらの心まで洗われる気がした。そしてまた、代表して感謝の気持ちを述べてくれた男の子の言葉が忘れられない。“信じてください。私たちは、この鉛筆でしっかり勉強します。” たどたどしい日本語なのに、とても胸を打つ言葉であった。



一人一人に鉛筆贈呈

②スタンミエンチャイ 小学校

NGO・VCAO (Vulnerable Children's Assistance Organization) が1997年に設立したプノンペン郊外にある小学校。VCAO自体は1994年に、長い内戦によって自らも孤児であるカンボジア人によって設立された団体である。このスタンミエンチャイという場所は、毎日首都のプノンペンからゴミが大量に運び込まれ、巨大なゴミ捨て場になっている。ここでは50人以上の貧しい家の子どもたちがお金になりそうなものを拾って集め、それを売ることによって1日多くても1ドルというお金を稼ぎ生活している。VCAOは子どもたちのために、衣食住施設を設け、教育や健康管理も支援する活動をしている。

私たちが訪問した時には、小学校へ上がる前のプレスクールの子



クメール語の数字の勉強

ムオイ、ピー、バイ…

(1、2、3…)

本を贈呈し、プレススクールの子どもたちにはそれぞれ一本ずつの鉛筆を手渡した。しかしひとたび隣のゴミ山に目を向けると、真昼の暑い中至るところで自然発火が起きて煙がくすぶり、衛生状況も非常に悪い。それにもかかわらず、50人以上の子どもたちが一生懸命ゴミを拾っている。VCAO がいくら支援をしても、貧しい地域からまた新しい子どもたちがやってきてゴミを拾うという現状がある。さらにゴミを拾う子どもたちの中には、ゴミを運んでくるトラックに轢かれてしまったり、山が崩れてゴミに生き埋めになってしまう者もいるということを聞き、大きなショックを受けてしまった。

ここは近年日本政府、JICA がカンボジア政府に協力して、ごみ処理場の整備を進めている。しかし、私たちが考えなければならないのは、カンボジアだけでなく、日本のごみ問題でもある。カンボジアを訪れると必ず、普段意識しないような日本の社会の問題が見えてくる。

2. カンボジア支援プロジェクト視察の報告

①除隊兵士支援プロジェクト

2000 年より横浜に本部のある NGO インターバンドが取り組んでいるプロジェクトで、テラ・ルネッサンスが 2005 年からプロジェクトを支援する（予定）ことから、今回実際の現地の様子をスタッフのクン・チャイ氏に聞き、インターバンドが支援し終えたバタンバン州の除隊兵士の 4 家族をインタビューした。



Pan Sovath 氏（53 才）

その中の 1 つの家族のケースを紹介したいと思う。Sovath 氏は元政府軍の兵士で前の奥さんとの子どもが 5 人、新しい奥さんとの子どもが 1 人いる。しかし、前の奥さんとは浮気と DV（家庭内暴力）が原因で別れたそうである。そして新しい奥さんはなんと 18 才だそう。彼はプレアビヒア州で地雷を踏んで片方の足に義足をはめている。インターバンドは、2004 年 4 月から 9 月までの 6 ヶ月間この家族に支援を行い、Sovath 氏は自転車修理の職業訓練を受け、小額融資で鶏の飼育を始めた。鶏を飼育し、成長したら、それを販売し、現金の収入を得ることができる。そのおかげで奥さんが経営している日用雑貨店の規模を拡大することができたと喜んでいて。

ただ、家や日曜雑貨店が隣接している道路の拡大のために政府から立ち退きを要請されており、他に住む土地とお金もなく、本当に立ち退きさせられてしまったら、選択の余地は全くと Sovath 氏は心配していた。

今回の 4 家族にインタビューして最も印象的だったのが、去年から今年にかけて雨があまり降らなかったために、肥沃といわれるバタンバンの土地でも水不足になり、お米がほとんど取れなかったということである。自給自足に近い生活の貧しい人たちにとっては、大変厳しい環境に置かれているのである。しかし、インターバンドの支援で自立して生活を始めた人たちは、「今やっている農業や家畜の飼育をもっと拡大したい」と将来に対する希望も話してくれた。

クン・チャイ氏によれば、本当に貧しい人たちを支援するにはドナーとの関係が重要で、最も必要なところに使えるお金を得られるかどうかは、結局ドナー次第であると強調していたのが印象的だ。私たちは現地の声に耳を傾けながら、必要なところに十分な資金が回るような支援活動を展開していくことを、改めて心に誓った。

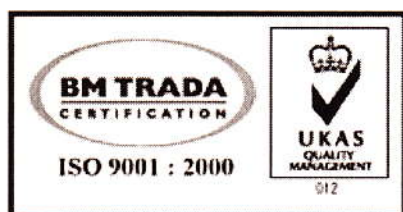
NGO がこの除隊兵士の支援を行うことの利点は、政府や国際機関などが行う活動よりもそれぞれの家族の状況に応じて、さらにきめ細やかで柔軟性に富んだ支援ができる点である。カンボジア政府も除隊兵士

の社会復帰プログラムを行い、いくつかの選択肢を与えてはいるものの一律的にならざるをえない。その場合、健康な人であれば、そのプログラムを利用して生活していけるであろうが、戦闘中に怪我をしたり、病気になったり、精神的ダメージが大きすぎた人たちにとっては、それだけでは必ずしも生活していけないことが多い。こうした弱く貧しい立場の元兵士、もしくはその家族を支援し、そしてその家族に応じた支援を行うことができるのは、やはり NGO ならではと言えるであろう。

②義肢装具士養成プロジェクト

このプロジェクトは、義肢装具を無料で地雷被害者や身体障害者に提供し、同時に義肢装具士を養成する学校も運営しているイギリスの NGO カンボジアトラストの活動を支援するものである。

義肢装具士養成学校 (CSPO) は、3 カ年教育課程を通じて、身体障害者ケアの専門知識を持つスペシャリストを育成し、リハビリテーションサービスの基盤を着実に造り上げている。毎年 12 人の学生が入学し、現在は、カンボジア人だけでなく、アフガニスタン、東ティモール、ラオス、ミャンマー、スリランカからの生徒も受け入れている。



また CSPO は、1999 年には世界義肢装具協会の認定校になり、そして、ISO9001 という国際的に信頼性の高い認定を受けたカンボジアで最初の非営利団体であり、世界でも唯一認定を受けた義肢装具士養成学校である。

テラ・ルネッサンスは、今まで義肢装具を提供する病院への寄付を行ってきた。今年からは、CSPO で学ぶ UM SOKUN さん (21 才 2 年生) に熊本で活動する NGO・KLCC (地雷廃絶と被害者支援の会・熊本) と奨学金を半分ずつ提供することとなり、その奨学金 45 万円を実際に本人に渡して、インタビューをしてきた。

彼女は、プノンペン出身で 3 人姉妹の次女。3 人ともこのカンボジアトラストの CSPO で義肢装具士になるために勉強中だそうである。お父さんも義肢装具士であったことで、興味を持ち、現在でも地雷やポリオの被害によって義肢装具を必要としている人がたくさん存在しているため、すべての患者に義肢装具を提供したいと思い義肢装具士になることに決めたと、穏やかではあるが、非常に明確な意識を感じられる口調で語ってくれた。この学校は英語で授業が行われるため、最初は戸惑いがあったが、今は慣れてきてやればできると感じていると話してくれた。たとえ分からないことがあったとしても、授業の後に先生に個人的に質問して聞くこともできるし、寮に戻ってから同じクラスの友達と授業についてディスカッションすることもあるそうだ。とても勉強熱心で、先生、そして一緒に学ぶ友達との関係がよく、学ぶのに素晴らしい環境であることを感じた。最後に、日本の支援者の方たちへ、まずとてもありがとうございますという感謝の言葉と、ここで勉強できることがとても嬉しく、しっかり勉強して良い義肢装具士になれるようにがんばりたいと力強く将来の夢を語ってくれた。



UM SOKUN さん

インタビューを通して、彼女ならこの学校を卒業して立派な技師装具士になってくれるだろうことを確信した。今後とも彼女の成長を見守りながら、自分たちも彼女たちの努力に負けないように活動していきたい。

(文責：江角泰)

すべての子どもたちが安心して暮らせる未来を 12/23 希望の光セミナー報告

■希望の光セミナー「DEEP PEACE」概要

日時：2004年12月23日（木） 13:00～18:00

場所：後楽園会館（東京都文京区後楽1-7-22）

主催：テラ・ルネッサンス/コスモライフ研究会 協賛：有限会社アースエネルギー研究所

出演：森友嵐士（元・T-BOLAN ボーカル）、岡田多母（コスモライフ研究会）、鬼丸昌也（本会代表）

■第1部 「今、世界の子どもたちへ」



講演・対談に聞き入る参加者

13時開演。司会の吉田沙恵子さんが今回のメインゲストである森友嵐士（もりともあらし）さんと呼ばれ込むと拍手の中、会場へ。参加者を前に、本会に出演した経緯についてお話下さいました。

その後、2004年4月に鬼丸がウガンダ北部で撮影してきた映像を10分ほどにまとめて紹介。そこには元・子ども兵士へのインタビューが収められており、彼らが兵士時代にどのような体験をしたのかを語っていました。思い出すことすらつらいようで、とても苦しい表情をしていたのが印象的でした。

●一人から動くことの大切さ

ビデオ上映に引き続き、代表鬼丸の講演。子ども兵を取り巻く環境、子ども兵が増える大きな原因の小型武器などについて現状を語りました。同時に地雷廃絶に尽力した人々の話を紹介し、「地雷問題のようにきっと子ども兵や小型武器の問題も解決できる」、「一人ひとりが行動を始めることが大切」などと、参加者に「事実を知って、動くことの大切さ」を伝えていました。



対談する森友嵐士さんと岡田多母さん

●響きあうトークセッション

休憩を挟んで、森友嵐士さんと岡田多母さんのトークセッション。森友さんと岡田さんとの出逢いから話が展開。笑いが絶えないセッションの中、私たちの心に響く言葉がたくさんありました。

岡田さんから紹介された雑誌記事で初めて「子ども兵」問題に触れたという森友さんは、「昔の出来事だと思って読んでいたが、途中で今起きている問題だとわかった。信じられなかった。」と当時の気

持ちをコメント。岡田さんは「かかと1ミリ動いても、それは確かな一歩」と自分にできることから始める、そして続けることの大切さを教えて下さいました。

【希望の光セミナーこぼれ話】

森映枝さん（埼玉県・ファンクラブ会員）は毎年、秋になると銀杏を拾って販売。その収益をテラ・ルネッサンスへ寄付して下さっています。今年は希望の光セミナーで販売。91袋を完売されました。カンパを併せて30,000円を寄付して下さった森さん。自分にできる平和貢献のひとつですね。

■第2部 子どもたちにつなげる「平和の願い」

16時30分より第2部が開演。第2部はコーヒー、紅茶とケーキがついたティー・パーティー。出演者の森友さん、岡田さんも加わり、参加者の方との懇談を繰り広げました。森友さんのところにはファンの方が列を成して、サインを頂いたり、直接お話をされたりしていました。

その後、特別ゲストの中川一郎さん（ホリスティック心理教育研究所所長）による「タッピングタッチ」の実習が行われました。（2005年2月でのウガンダ現地調査の際にタッピングタッチによるリハビリテーションの可能性を探ります。）

【タッピングタッチとは】

タッピング・タッチとは、指先の腹のところを使ってタントントンと左右交互に軽く叩く（タッピング）することを言います。これは「こころと体の元気づけの技法」とも呼ばれ、タッピングしている内にこころも体もほぐれてきて、元気になろうとする力が目覚めてきます。タッピング・タッチはいくつかの要素から成り立っています。それらは、「左右交互のタッピング」、「タッチ（ふれあい）」、「話すこと・聞いてもらうこと」、「ツボ（経穴）の効用」です。（ホリスティック心理教育研究所 <http://www.tappingtouch.org/>）

■PEACE THE CHILDREN プロジェクトへ

株式会社アーティストハウス（代表取締役：楠部孝氏）の社会貢献事業として、「PEACE THE CHILDREN」プロジェクトが12月24日に開始されました。配信サイト：<http://www.netcinema.tv/peace-children/>でウガンダ北部の元・子ども兵の様子が10分ほどの映像にまとめられストーリーミング配信されています。今後、サイト内で子ども兵やその問題の背景にある小型武器問題も取り上げ、コンテンツをさらに充実させていく予定です。このプロジェクトのテーマ曲が森友さんの提供して下さった「ONE ROOM」。希望の光セミナーで現地の子どもの様子を紹介しながら、この曲を皆さまに紹介したのですが、とても心に響いてくるものがありました。（上記サイトでONE ROOMの視聴ができる予定。）

希望の光から始まった「平和のウェーブ」がどんどん大きくなっていきます。ご期待下さい。

＜収益報告＞

12月23日（木）に開催された「希望の光セミナー」において、チケット収入、当日に募られた募金を合わせると、**298,581円**となりました。趣旨にご賛同頂き出演を快諾して下さいました森友嵐士さん、吉田沙恵子さん、ご協賛を頂いた有限会社アースエネルギー研究所様、そしてご来場下さった皆さまに心より感謝申し上げます。この収益金は2005年に実施する元子ども兵士社会復帰プロジェクト経費に充てられます。ありがとうございました。（テラ・ルネッサンス事務局）

小型武器による悲劇をなくしたい

～日本小型武器行動ネットワーク設立と武器規制キャンペーンの開始～

■日本小型武器行動ネットワーク（JANSA）設立までの背景

世界 100 カ国、約 500 の NGO が国際小型武器行動ネットワーク（IANSA）というネットワークを結成しています。

テラ・ルネッサンスでは 2003 年の代表訪欧時に IANSA 事務局（イギリス）にて加盟申請を行い、日本国内での小型武器問題の啓発活動に取り組んでまいりました。2004 年 2 月に同じく IANSA 加盟団体である（特非）インターバンド事務局を訪れ、小型武器問題に関する勉強会を開催することで合意。毎月 1 回のペースで小型武器のあらゆる側面に関する勉強会を展開してきました。

勉強会を重ねる中で、それぞれの団体の強み（専門性や活動ノウハウなど）を活かしながら、小型武器問題の解決のために力強い活動を展開しようということになり、IANSA の日本版である「日本小型武器行動ネットワーク（JANSA）」を設立することを 3 団体で合意しました。

※3 団体＝（特非）インターバンド、（特非）ネットワーク地球村、テラ・ルネッサンス

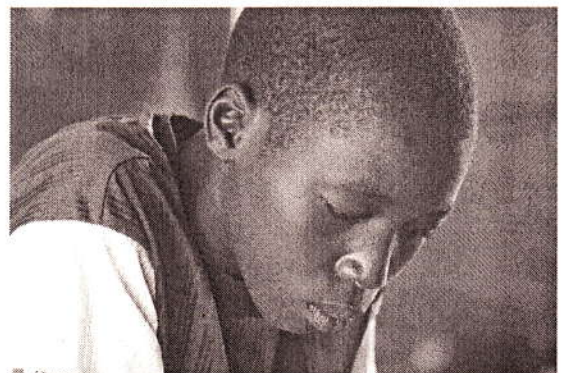
●小型武器って？

小型武器とは、拳銃、自動小銃、対空砲、地雷、手榴弾などの「一人もしくは数人で扱うことのできる武器」のことで、現在、世界中に約 6 億 3900 万丁存在しています。つまり世界中の 10 人に 1 人が所有している計算になります。

●小型武器が何を引き起こすか？

●女性と子どもの命を奪う

毎年 50 万人、つまり 1 分間に 1 人の命が小型武器によって奪われています。また、その犠牲者のうち約 9 割が一般市民であり、さらにそのうちの 8 割は女性と子どもです。1990 年以降、約 200 万人の子どもたちが殺されました。



いつも小型武器の被害者は子どもたち

●子ども兵を生み出す

子どもでも扱える小さく、軽く、自動化された小型武器が開発されたことにより、子どもが銃を持ち、戦場の最前線で戦わされるようになりました。現在、世界では 30 万人以上の子どもたちが武器を手に戦っています。

●貧困を長期化させる

紛争後、地雷や不発弾は、畑などの生活圏に残されています。小型武器の氾濫による犯罪の増加や治安の悪化は、人々が安定した収入を得ることを妨げ、貧困から抜け出すことをますます難しくしています。治安が安定しない地域において、国際機関、NGO などが平和構築、持続可能な開発を実現することは容易なことではありません。

（参考：日本小型武器行動ネットワークリーフレット）

■日本小型武器行動ネットワークとは

名称：日本小型武器行動ネットワーク

URL：http://jansa.jp



日本小型武器行動ネットワークの理念

同じ目的を持つ世界の様々な団体の多様性を尊重し、互いの相違点ではなく共通点を探ることにより、問題解決に向けて協働していきます。

日本小型武器行動ネットワークの目的

小型武器によって引き起こされるあらゆる暴力（問題）をなくすこと。そして 2006 年までに、武器貿易条約（ATT：Arms Trade Treaty）の締結を目指します。

主な活動内容

- ・ JANSA 加盟団体の情報/意見交換の場の提供
- ・ JANSA ニュースをはじめインターネット上での小型武器関連情報の提供
- ・ 武器貿易条約（ATT：Arms Trade Treaty）締結に向けた武器規制キャンペーンの実施 など

■JANSA 設立記者会見と記念シンポジウム



JANSA 設立記者会見（場所：衆議院議員会館）



基調講演される猪口邦子教授

設立記者会見を衆議院第 2 議員会館にて開催。

新聞記者やジャーナリスト、政治家を前に小型武器問題の現状、JANSA の目指すものを発表致しました。（代表は司会進行を担当）

JANSA 設立を記念してシンポジウムを 11 月 20 日（土）に早稲田大学にて開催。

基調講演は 2004 年初頭まで国連軍縮会議日本政府代表部特命全権大使と務めていた猪口邦子（上智大学教授）さん。軍縮大使、国連小型武器会議中間会合の議長としての体験を基に格調高い講演をして下さいました。基調講演をうけてのパネルディスカッションでは、戸田隆夫（国際協力機構平和構築支援室長・個人資格で参加）さんのコーディネートの下、野中章弘（アジアプレス・インターナショナル）さん、山田太雲（オックスファム・ジャパン）さん、松浦香恵（インターバンド、JANSA 設立委員）により様々な立場からの小型武器問題と軍縮について議論が交わされました。

日本小型武器行動ネットワーク設立にあたって（代表：鬼丸昌也）

2003 年 8 月に猪口邦子大使（当時）をジュネーブに訪ねました。猪口さんは国連軍縮会議の議長職を務める初日にもかかわらず快く対応してくださり、小型武器軍縮にかける想いを分かち合うことができました。1 年近くたった 2004 年冬。ものすごい速さで日本での小型武器軍縮が形になっていく姿をみて、心震えるものがありました。猪口さんにお会いしたときにプレゼントとしてお渡ししたチョコレートのリボンを、猪口さんは今も研究室に飾っていらっしゃるそうです。いつか日本の NGO が小型武器問題に力強く取り組む日が来るようにと……。確実にその歩みは力強く踏み出されました。

■武器規制（コントロール・アームズ）キャンペーン始まる！

JANSA 加盟団体（（特非）ネットワーク地球村、（特非）インターバンド、テラ・ルネッサンス）と、（特非）オックスファムジャパン、（社）アムネスティ・インターナショナル日本事務所の5団体は、2003年に開始された武器規制を求める国際キャンペーン「武器規制（コントロール・アームズ）キャンペーン」を日本国内で展開することになりました。

世界規模では、2003年10月に発足しました。国際的な展開をするキャンペーンの実行団体は、アムネスティ・インターナショナル、オックスファム、IANSA（国際小型武器行動ネットワーク）。

私たち世界中のNGOは、同じ目標に向かい、一つのキャンペーンのもとに力を結集しました。国際社会に対しては、国境を越えた武器取引を規制するために、国際社会全体で取り組むべき対策（主に武器貿易条約）を提言します。また、世界の国々の政府には、国内の取り締まりを求めるという訴えをそれぞれの国で行っています。

加えて、それぞれのNGOが、それぞれの活動する地域で、多くの一般の人に、武器の濫用によって起きている惨状と、対策がいっこうに取り組まれない現状を知ってもらい、「武器のコントロール」が実現に至るよう活動しています。

注1) 武器貿易条約：国際法上の義務に違反する、重大な人権侵害、人道上の被害をもたらす武器移転を規制する条約。国際法学者グループが草案を作成。イギリス、コスタリカなどが賛同。

日本国内の目標は100,000人 皆さんも今すぐ署名を

<http://www.ControlArms.jp>

■私たちが参加するにはどうしたらよいの？

武器規制キャンペーンの一環で、ミリオン・フェイス・キャンペーン（100万人の顔署名）が始まっています。

ミリオンフェイス
武器規制をもとめる100万人の顔署名

2006年の国連小型武器会議にて武器貿易条約（ATT：Arms Trade Treaty）の締結を求めるために、世界規模の署名活動を行っています。普通の署名と違うのは、顔写真署名だということです。100万人の顔写真署名を集め、国連小型武器会議の時、国連ビル前に顔写真を貼り出して、武器規制を求める国際的な意思を伝えようというアイデアもあります。

日本では独自に署名を集めるサイト（<http://www.cotrolarms.jp>）を制作、街頭での署名集めやパ

ソコンから写真を送るだけでなく、携帯電話の写真撮影機能を利用して署名ができるようにしました。



記者会見の後に主要メンバーで（12月・参議院議員会館）

武器輸出三原則を持ち、軍事用の武器を輸出していない倫理的な強さを持つ日本こそ、武器規制のリーダーシップを取るべきだと私たちは考えます。その始まりは私たち一人ひとりから始まるのです。誰もが安心して暮らせる社会を目指して・・・。

（文責：鬼丸昌也）

■全国各地から真心の支援が続々と

子どもたちが動いています

12月21日（火）。京都市北西部にある高雄地区に行ってきました。全校生徒50名の京都市立高雄中学校では、前任校長の杉山智一先生のとにご縁を頂き、生徒会リーダー合宿で地雷の講演をさせて頂いたことがきっかけとなり、毎年募金を頂戴しています。生徒会の新旧引継ぎが行われる11月に高雄地区にある名刹「神護寺」で募金活動の他、地域の事業所に募金箱を置かせてもらうなどの取り組みを展開してくれています。

翌日の22日（水）には、ノートルダム学院小学校（京都市北区）終業式にて、5年生より募金を頂きました。（社）京都青年会議所のメンバーの方が保護者であった関係で紹介を頂き、11月に地雷に関する講演をしました。すると、子どもたちは「自分たちに何ができるのか。」を話し合い、募金活動をするようになったそうです。ある子は自宅の周辺にある家をまわり募金を呼びかけたり、ある子は公園で募金活動のための発声練習をやったりと、自らできることに取り組んでいるたくましい姿勢を見せてくれました。子どもたちは確実に動き始めています。

全国初！？美容サロンを通して国際協力ができる！！

去る11月下旬、美容薬品卸会社の（有）ワイズネットワークとテラ・ルネッサンスの共催で、美容サロン関係者を対象に「大阪平和セミナー」を開催しました。ワイズネットワーク社長の眞田由彦さんの発案により、美容業界の国際協力推進を行うネットワークづくりの第一弾として開かれたものです。

テーマは『地雷畑で見た夢』。会場には美容業界で働いておられる若い方々の姿が目立ちました。髪をカットすること、カラーリングをすること・・・、特別何かをせずとも普段のお仕事を遂行することが国際協力につながる・・・。そして何より、世代を問わず多くの方が集う美容サロンで、国際協力の機会と場を提供するという美容業界に生まれた国際協力の新しい形。美容業界とNGOのコラボレーションというこの斬新な取り組みを前に、国際協力にはまだまだ未知秘めた大きな可能性があることを感じずにはられません。どうぞ今後も、『国際協力サロンネットワーク』の取り組みにご注目下さい！！（問い合わせはテラ・ルネッサンス事務局（電話 075-645-1802）まで）

お正月に理・美容院に行って、国際協力

理・美容店を大阪府内に展開されている株式会社バービック様（本社：大阪府豊中市）で、従業員の皆さまが正月休みを返上して、テラ・ルネッサンス支援のための店内イベントを開催して下さることになりました。



＜詳細＞

日時：2005年01月03日、04日 午後1時から5時まで

■お子様カット（小学6年生まで） 500円

（ひとりでも多くの方にご参加いただきたいので、シャンプー・ブローは除く）

■酸素トリートメント体験 1回100円（10分）

（ベッカム、米倉涼子などが愛用しているとマスコミで紹介。話題のカプセル）

場所：バービック箕面ヴィソラ店（109映画館前） 電話：072-720-7203

【ご注意】 先行予約は店頭にて実施中。電話予約は01月03日午前10時より

■テラ・ルネッサンス 国際協力カレンダー 2005『Children First』



3
月

未だ世界各地で起こっている紛争。いつも犠牲となっているのは他ならぬ子どもたちです。それは遠い国のこと、自分とは関係のない世界のことではないのです。周りを見回してみれば、海外で作られた多くの物を見かけます。決して一人で生きているわけではないのです。世界で起こっていることに無関心でいることはできないのです。

子どもたちが安心して暮らせる社会。まさにそれこそ誰もが安心して暮らせる社会。その思いが『Children First』の意味には含まれています。同じ人間として、一人の人間として、彼らのために私たちができることは何なのでしょうか？

私たちが考えるのは、まず事実を知ること、アクションをおこすこと。それが同時にできるように考えたのが国際協力カレンダーです。カレンダーの写真や解説文を通して現地の事実を理解することができます。収益はカンボジアとウガンダでの支援事業に使われます。例えば次のような支援が可能になります。

カレンダー 1 部購入→カンボジアの 5 m²分の地雷除去費用
カレンダー 6 部購入→除隊兵士の家族 1 ヶ月分の支援費用

カレンダーの購入を通して、私たちに世界の子どもたちを救える、彼らの夢や未来・平和のためにできることがある、それを一人でも多くの方に感じて頂きたいと願っております。

◆価格：1 部 1500 円（税込み、送料別） ◆写真提供：写真家・フォトジャーナリスト 山田しん

◆お申し込み方法 同封チラシかホームページを参照下さい

＜申込ページ＞ http://www.terra-r.jp/katsudo/calender2005_f.html

国際協力担当（江角） taiezumi@civie.net 事務局 FAX：075-645-1802

■新しいテラ・ルネッサンスリーフレットが完成しました

岡田多母さん（埼玉県・ファンクラブ会員）をはじめとする多数の会員の皆様のご支援で、2 種類のリーフレットが完成しました。デザインは商業デザイナーの廣田武志さん。ひとつは事業内容を詳しく紹介したものと、もう一つは入会申込書（自動振替依頼書）のついたものを作成しています。合計 1 万 5,000 部作成しましたので、お知り合い、ご友人、会社などに配布して頂ける方は、テラ・ルネッサンス事務局までご一報下さい。ご希望の枚数を配送させていただきます。この機会にテラ・ルネッサンスの広報にお力添えを頂きますようお願い申し上げます。

＜廣田武志さんのコメント（有限会社 hirotaS 代表）＞

はじめまして、商業デザイナーの廣田武志です。テラ・ルネッサンスのビジョン「全ての生命が安心して暮らせる社会の実現」に同感し、今回リーフレットの編集やデザインを鬼丸さんと共に制作することができ、とても有意義に感じました。小さなリーフレットですが、国境を越えた活動の息吹を感じ、報道として正確に伝える事に留意しました。活動への関わり方は多様です。「一人ひとりに、未来を造る力がある」この言葉のとおり、皆さま方の多様な力が加われば更に素晴らしくなることでしょう。そう、あなたにできることは必ずあります。このような活動を通して人の心と世界がよい方向に向かえば、これ以上の喜びはありません。

■21 世紀 PEACE 講座第 3 弾「熊本に走った超低床電車！！」報告

はじめよう平和への第一歩 — それはあなたの暮らす社会から



著書：バリアフリーが街を変える

今年度 3 回に渡り開催してきた「21 世紀 PEACE 講座」。最終回は熊本から一級建築士の白木力さんにお越し頂き、「熊本に走った超低床電車！～誰もが安心して暮らせる社会を目指して～」をテーマにご講演頂きました。白木さんは建築家である一方、1992 年にバリアフリーデザイン研究会を立ち上げ、超低床電車を全国で初めて熊本市に走らせた方でもいらっしゃいます。この超低床電車は車イスご利用の方が一人でも乗り降りできるほどの床の低さで、子どもからお年寄りまであらゆる人々に優しい、なおかつ環境にも配慮された欧州では大変ポピュラーな乗り物です。この乗り物を熊本市で走らせたことにより、現在全国各地でその導入の検討がなされています。

超低床電車を熊本に導入するまでの軌跡、並々ならぬ努力と研究、力を合わせともに実現を見た仲間の一。映像を見て、白木さんの言葉を聴いて、心で感じた、熊本での「平

和の実現」と全国に広がる「平和の連鎖」でした。

NGO の活動は海外が主であるということもあり、ともすると遠い地で起こっていることや彼らのために動くこと、その事ばかりに考えが行きがちです。しかしながらそれと同様に、自分のまわりを見渡し、自分自身が暮らすこの日本や地域社会においても同じように、「平和な社会」を実現するために動くことの大切さを教わりました。

これまでこの連続講座では、アフリカの子ども兵・小型武器問題（第 1 回目）、軍縮問題（第 2 回目）を扱ってきました。まずは遠く離れた地で起きていることの真実を知る、次に自分に引き寄せてできることを考える。そして、動き出す。まさにこのプロセスを再認識した PEACE 講座となりました。（文責：駒野裕子（龍谷大学院生））

【編集後記】

今年は国内外において忘れられないできごとがたくさんありました。プロ野球再編問題、企業倫理、中越震災と続いてきて、この結晶母の編集作業中にスマトラ地震が起こりました。今こそ「全ての生命が安心して生活できる」という大切な視点に根ざした社会づくりが必要だと感じています。

テラ・ルネッサンスは、4 月のアフリカでの子ども兵・小型武器問題の調査に始まり、日本小型武器行動ネットワーク設立、武器規制キャンペーンの開始など、活動の転換点となるできごとが続きました。これらの活動を支えていただいているのは、会員様やたくさんの方のご支援やご声援です。私たちが一歩、足を前に踏み出すとき、どれだけの人たちが背中を支えてくださっているのか。全てのご支援、ご声援が、かけがえのない出逢いから始まったものです。2005 年も皆さまのご支援、ご声援に応えるべく、一生懸命、活動に取り組んでまいります。

また、この紙面製作は江角泰、山口優樹、駒野裕子、3 名のインターンが頑張ってくれました。2005 年の彼らの活動にもご期待ください。（代表 鬼丸 昌也）

■今後の予定（01月～02月）

01月13日 主催：月例ミーティング（京都）

場所：ひとまち交流館京都 時間：19：00～21：00

01月15日 出展：幸塾全国大会（京都）

場所：国立京都国際会館イベントホール 時間：09：30～18：30

出演：船井幸雄（経営コンサルタント）、本田健、比嘉照夫など

（チケットお求めの方は、テラ・ルネッサンス事務局まで）

01月25日 講演：京都市立松原中学校（京都）

02月05日 出展：ワンワールドフェスティバル（大阪）（運営ボランティア募集）

02月10日 主催：月例ミーティング（京都）

場所：ひとまち交流館京都 時間：19：00～21：00

02月11日 出展：伏見国際フェスティバル（京都）（運営ボランティア募集）

※13日まで写真展。11日には報告会を開催。場所：伏見青少年活動センター

02月23日 講演：立正佼成会沖縄教会（沖縄）

下線の事業はテラ・ルネッサンス主催・若しくは関係しているイベントです。参加ご希望の方はテラ・ルネッサンス事務局までご一報ください。

ただ今、募集中！

事務局や地域活動でのボランティア

事務局での事務作業やイベント運営スタッフ、各地域でのイベント・キャンペーンを企画・運営して下さる方を募集しています。

書き損じはがき

年賀状の書き損じはがき眠っていませんか。テラ・ルネッサンスにお送り下さい。換金して事務局運営費や国際協力事業費として使わせて頂きます。

<問合せ先>テラ・ルネッサンス FAX：075-645-1802 メール：tokotowa@anet.ne.jp

一緒にテラ・ルネッサンスを造っていきませんか（会員募集）

テラ・ルネッサンスは世界平和の実現を目指す市民団体です。多くの市民が参加することで、世界を変える力が大きく生み出されます。テラ・ルネッサンスの趣旨に賛同される方は、ぜひメンバー登録をお願い致します。皆様の想像力と行動が、確実に世界を変えていきます。

【会員特典】

- ・活動報告、平和問題リポート掲載の会報誌（季刊）の贈呈
- ・テラ・ルネッサンス主催のイベントへの優待 など

【会員種別】

正会員	●正会員	30,000 円／年
賛助会員	●個人会員	3,000 円／年
	●ジュニア会員（18 歳まで）	1,000 円／年
	●団体会員	50,000 円／年
ファンクラブ会員	●一口（月額三口以上で、正会員と同じ権利を有します）	1,000 円／月

郵便振替 00950-7-133760 加入者名 テラ・ルネッサンス基金